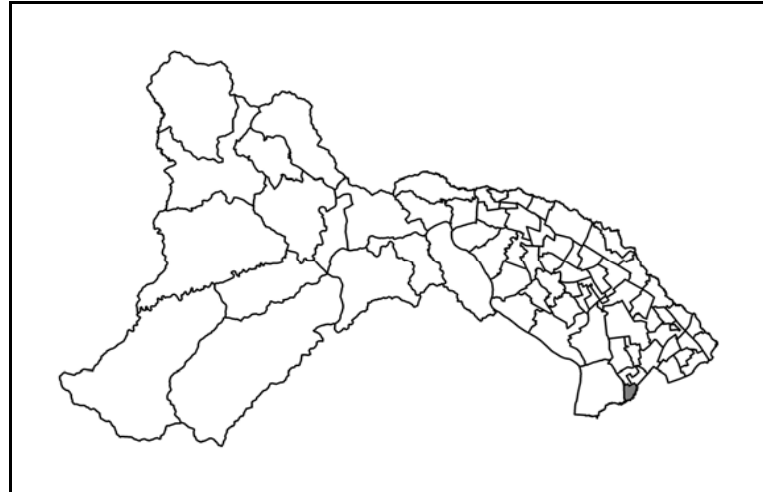


○地区を構成する町丁

【南区】新磯野1丁目・3丁目・4丁目、相武台1丁目～3丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

相武台(相武台前1の1, 相武台前1の2, 相武台前1の3, 相武台前2の1, 相武台前2の2, 相武台前2の3, 相武台前2の4, 相武台前2の5, 相武台前2の6, 相武台前3の1, 相武台前3の2, 相武台前3の3, 相武台前3の4, 新磯野3丁目第1, 相信, 相武台サンハイム, サンヴェルジュ相武台)

○地区概況

台地(上段)にあり、全体に平坦な地形であるが、中央付近を南北方向に浅い谷が通っている。西側は在日米陸軍キャンプ座間ゴルフコースに接する。東側には小田急小田原線が通り、相武台前駅付近には商業施設も多いが、その他は住宅地である。

○建物数・人口

建物		区分		建物(棟数)	
建物	木造(昭和55年以前)	457	棟		
	木造(昭和56年以降)	750	棟		
	非木造(昭和55年以前)	68	棟		
	非木造(昭和56年以降)	472	棟		
	合計	1,746	棟		
人口		区分		人口(人)	
人口	0~4歳	326	人		
	5~64歳	6,082	人		
	65歳以上	1,696	人		
	合計	8,104	人		

○所見

- ・浅い谷の付近は周囲より低く、水が集まりやすい。
- ・相武台前駅付近では、通勤時等に不特定多数の人が多い。
- ・富士山の大規模噴火時には2~30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	相武台まちづくりセンター, 相武台公民館
警察署	
消防署	
消防団詰所	
病院等	荘加医院
主な災害時要援護者施設	ほのぼのグループII, アライブかながわ
幼稚園、保育園	新磯野保育園, つくしの幼稚園
学校、大学	緑台小学校
避難所 ※洪水時避難所兼用	緑台小学校
洪水時避難所	
広域避難場所	
防災備蓄倉庫 ※広域避難場所対応	緑台小学校
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

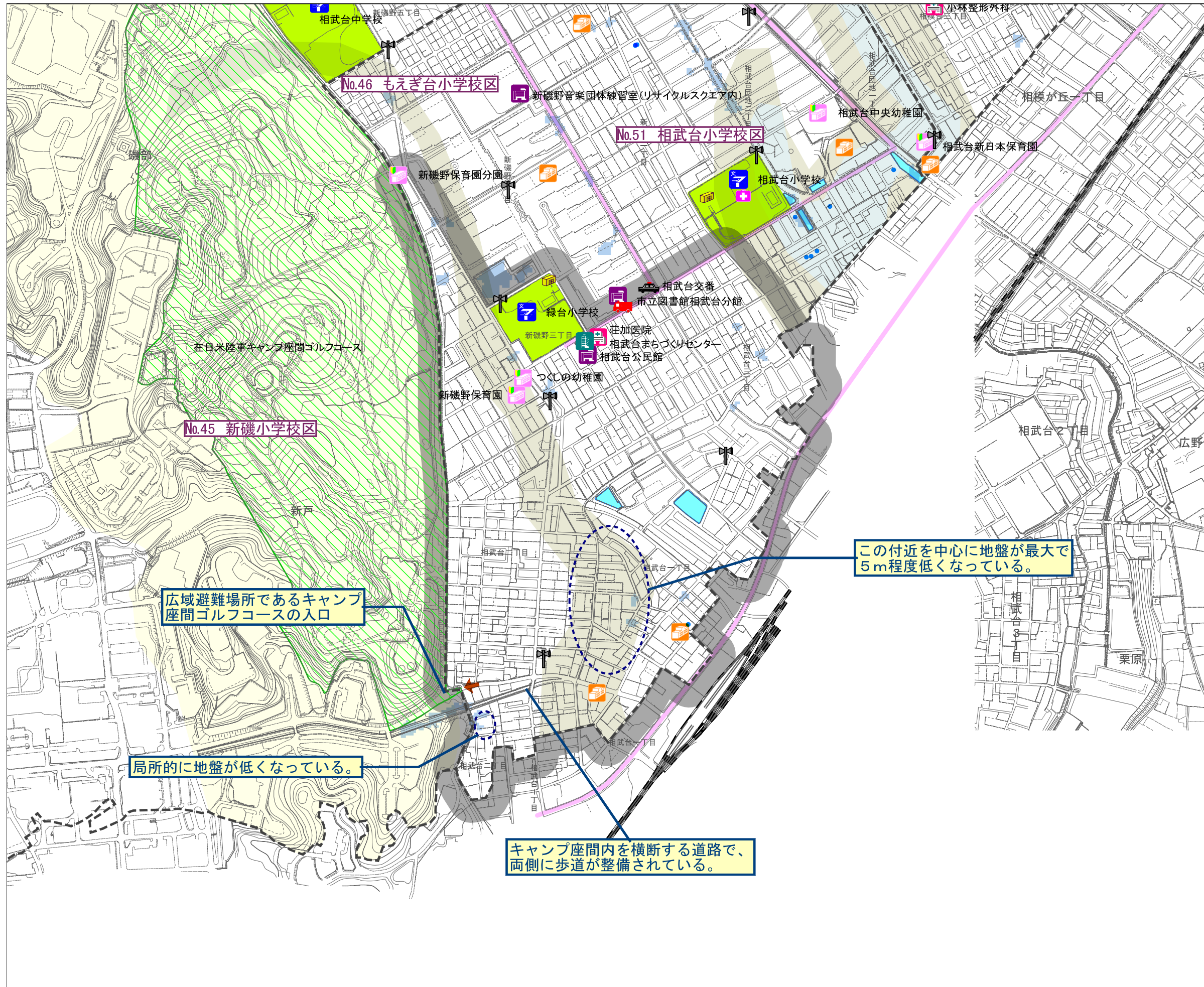
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	55 棟	3.1 %	3 棟	0.2 %	42 棟	2.4 %
建物焼失	11 棟	0.6 %	1 棟	0.0 %	0 棟	0.0 %
死者	3 人	0.0 %	0 人	0.0 %	3 人	0.0 %
閉込者	21 人	0.3 %	1 人	0.0 %	16 人	0.2 %
重傷者	4 人	0.1 %	0 人	0.0 %	3 人	0.0 %
軽傷者	34 人	0.4 %	7 人	0.1 %	29 人	0.4 %
避難所避難者(当日)	190 人	2.3 %	22 人	0.3 %	132 人	1.6 %
避難所避難者(1週間後)	565 人	7.0 %	172 人	2.1 %	483 人	6.0 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害	
地震による地盤災害	
地震による建物被害、火災	

○近年の主な災害履歴

平成 1年 8月19日 床上浸水1戸



凡 例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設 幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)



1:7500

